

異邦人コルネリウスの回心

カイサリアはエルサレムから北西へ約 60 マイル、地中海に面する大きな町でユダヤを支配するローマの総督府があった。コルネリウスはイタリア隊と呼ばれる部隊の百人隊長で、カイサリアに駐屯中にユダヤ教に帰依し、家族一同と共に神を敬い、慈善に励む祈りの人であった。

ある日の午後の祈りのとき、彼は幻のうちに「ヤッファに人を送って、ペトロと呼ばれるシモンを招きなさい」とい声を聞いた。コルネリウスはただちに、僕（しむべ）二人と、部下の中で信心深い兵卒一人を呼び、いっさいのことを説明して聞かせ、ヤッファへと送り出した。彼らは 30 マイルの道程をヤッファへと急いだ。

ちょうどその頃、ペトロは祈りをするために屋上の間に上がった。彼が空腹を覚えて、何か食べたいと思っていたとき、突然天が開け、大きな布の入れ物のようなものが四隅をつるされて、地上に下りて来るのを見た。その中には、地上の四つ足や這う物、また空の鳥など、ユダヤ教で伝統的に不浄のものとされていた各種の生き物が入っていた。

すると声が彼に聞こえてきた、「ペトロよ、身を起し、（それらを）屠って食べなさい。」ペトロは言った、「生よ、とんでもないことです。清くない物、汚れた物は（今まで）何一つ食べたことがありません。」すると二度目に声がかかってきた、「神が清めた物を、清くないなどとあなたは言うてはならない。」こんなことが三度もあってから、その入れ物はすぐに天に引き上げられた。

ペトロが、いま見た幻は何のことだろうと思ひ巡らしていた丁度その時、コルネリウスから送られた三人の使いがシモンの家に到着した。異邦人の来訪にペトロがさらに驚いていると、御霊が言った、「ペトロよ、彼らが異邦人だといって驚くな、わたしが彼らを遣わしたのである。さあ立って、ためらわないで、彼らと共に出掛けよ。」と。

ペトロは躊躇する心を押さえて、その翌日、彼らと連れ立ってカイサリアへと出掛けた。その翌日、疲れた体でカイサリアに到着したとき、彼は、コルネリウスをはじめ、大勢の異邦人が目を輝かせて、神の言葉を聞くために集まっているのを見て更に驚いた。その時、彼は初めて、ヤッファで見た幻の真の意味を悟った。すなわち、異邦人もまた自分たち（ユダヤ人）と同じように神の恩寵の中に招かれているという福音の事実を悟ったのである（10 :28、34、35）。それは画期的な、革命的な悟りであった。

ペトロは異邦人コルネリウスとそこに集まっていた人々に、情熱を傾けてイエス・キリストの福音を語った。しかし、彼がまだ語り終えないうちに、聖霊が、ペンテコステの日と同じように彼ら一同にくだり、コルネリウス家に神をたたえる異言と賛美の音が響きわたった。この圧倒的な聖霊の働きはペトロとその同行者たちの異邦人に対する考えを一変させた。

コルネリウスとその一族の回心と救いの出来事は、キリストの救いの福音が一民族に限られたものではなく、世界的な広がりをもった神の恩寵の招きであり、ユダヤ人だけでなく、すべての民に与えられる神の恵みであることを示す画期的な出来事であった。こうしてキリストの教会は世界的な広がりをもった神の共同体として発展していくのである。